

主な学校感染症

◎病気の種類と出席停止期間

第1種	病名		出席停止期間	
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、南米出血熱・ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ		治癒するまで	
第2種	病名		主な症状	出席停止期間
	インフルエンザ		高熱、関節痛・筋肉痛 倦怠感、かぜ症状	発症した後5日、かつ解熱した後2日を経過するまで（幼児にあっては3日）
	百日咳		特有の激しい咳 かぜ症状	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹		全身の発疹、頬の内側に白い斑点、発熱、鼻水、咳	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		耳下腺のはれと痛み（押すと痛む） 発熱	耳下腺、顎下腺又は舌下線の膨張が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風しん		発疹、発熱、リンパ節の腫れ	発しんが消えるまで
	水痘（水ぼうそう）		発しん、水疱、膿疱、かさぶたの順に進行	すべての発しんがかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱		発熱、のどの痛み、目やに、目の充血	主な症状がなくなってから2日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症		発熱、咳、全身倦怠感、頭痛、下痢、味覚異常、嗅覚異常	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	結核		発熱、咳、倦怠感など	病状により学校医、その他の医師において伝染の恐れがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎		発熱、頭痛、けいれん、意識障害	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ		激しい下痢、嘔吐	治癒するまで
	細菌性赤痢		発熱、腹痛、下痢、嘔吐	治癒するまで
	腸管出血性大腸菌感染症		腹痛、水溶性の下痢、血便	病状により学校医、その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで
	腸チフス、パラチフス		持続する発熱、発しん	治癒するまで
	流行性角結膜炎		目の充血、異物感、まぶたのはれ・目やに	学校医、その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで
	急性出血性結膜炎		結膜や白目の部分の出血、目の激しい痛み、浮腫、涙	学校医、その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで
	感染性胃腸炎		嘔吐、下痢、腹痛、吐き気	
	その他の感染症	サルモネラ感染症	下痢・血便・嘔吐・発熱	症状が軽減し、全身状態の良い者は登校可能
		マイコプラズマ肺炎	かぜ症状、咳	
		溶連菌感染症	発熱、のどのはれ、咽頭痛	
		伝染性紅斑	両頬の紅斑、発熱	全身状態の安定しているものは登校可能
		手足口病	発熱、手足、口中に水疱	
		ヘルパンギーナ	発熱、口内炎、のどの痛み	
		アタマジラミ	かゆみ、無症状のこともある	
		水いぼ	いぼ	通常、出席停止の必要はない
伝染性膿痂疹（とびひ）		小さい水疱ができ、破れて膿が出る、かゆみ		
その他				

出典：学校・園における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン第8版 世田谷区教育委員会 2023.5
 学校保健安全法施行規則の一部を改正する省令 2023.4
 学校において予防すべき感染症の解説 公益財団法人 日本学校保健会 2024.3